

長崎いのちの電話だより



45号
2015(平成27)年
6月20日
社会福祉法人長崎いのちの電話

〈相談電話〉 **095-842-4343** 年中無休
(第1・第3土曜日は9:00～翌9:00) 9:00～22:00
全国一斉フリーダイヤル(毎月10日 8時～翌8時) 0120-738-556
自殺予防 いのちの電話

(発行人)中根 允文 (編集)広報委員会
〒852-8799 日本郵便長崎北支店 私書箱45号
(事務局)電話 095-843-4410
FAX 095-844-3600
ホームページ
<http://ngsk4343.sakura.ne.jp>

～新たな栄光のディケードに向けて～ 開局 20 周年記念の年度活動を振り返って

(社福)長崎いのちの電話 理事長 中 根 允 文
長崎大学名誉教授 出島診療所 所長



1994(平成6)年11月に開局した「長崎いのちの電話」は、昨年秋に20周年を迎えました。2015年からは更に新たな栄光のディケードにしていくために、継続的かつ積極的に活動していく所存であります。私どもを支援して下さっている皆様には、今後とも何卒よろしくお願い致します。

そこで、この1年間を大まかに振り返ってみることにします。私どもの法人の主たる業務は電話相談であり、年中無休で午前9時から午後10時まで電話を受けてきており、毎月第1土曜日と第3土曜日の2回は24時間受け付け、そして毎月10日はいのちの電話連盟が行うフリーダイヤル(FD)「自殺予防いのちの電話」に参加して、やはり終日電話相談に当たっています。その内容として、2014年1月から12月までの1年間における受信総件数は、無言電話4,690件を含めて18,978件(相談件数としては14,288件)に上り、うち「自殺志向」がうかがわれる相談は1,069件でした。

法人としては、もちろん こうした相談電話への対応が重要な業務ですが、実際には電話相談を受ける相談ボランティア(相談員の方々)の養成・研修も大事な作業です。例年、10ヶ月間程の養成講座(前期講座が8～9コマの講義、後期講座はほぼ同じ回数の実践研修・訓練など)や6ヶ月にわたる電話実習を経て相談員として認定を受けますが、認定後も電話相談に当たりながら、スーパービジョン(毎年数回の継続的な指導を受ける研修システム)や年数回の研修講座を受けるという作業があります。更にいのちの電話に係る啓発活動として市民向けの公開講演会などを開催したり、広報活動として毎年2回の会報発行もしています。

特に、2014年度の行事として明記しておきたいこ

とは、7月19日・20日の両日に「いのちの電話相談員九州ワークショップ」を私どものセンターが担当し長崎で開催したこと、そして11月8日には電話相談開局20周年記念行事を行ったことです。いずれも、非常に好評で、ワークショップには長崎の相談員の参加は当然ですが、九州各県から多数の参加者があり(全体で149名)、各県の相談員の方々と合同して研鑽を積み、そして相互の親睦を深める機会を持つことができました。また、記念行事では認知症の母の介護を通して直面した話題を漫画「ペコロスの母に会いに行く」として公刊された岡野雄一氏に「寄り添うということ」と題して講演していただきました。これにも、316名という会場いっぱいの聴衆が来ていただきました。「開局20周年記念誌」も発刊しました。こうした行事の成功は、いずれもひとえに皆様による日頃のご支援のおかげであり、心から感謝しています。

今後とも、更なる応援をよろしくお願い致します。



昨年の20周年記念式典で永年協力者のお一人(右)に感謝状をお渡しする中根理事長

開局 20 周年記念誌より

当センターは、1994（平成6）年11月5日（土）午後5時に開局しました。以来20年間1日も休むことなく電話相談活動を続けてきました。これを記念し昨年11月8日に『ペコロスの母に会いに行く』の著者・岡野雄一氏を講師に迎え、記念公開講座を開催し、併せて記念式典及び感謝の集いを開催しました。

この折に多くのご来賓の方々から祝辞を頂戴し、また草創期を担った諸先輩方から『あの頃』を振り返るメッセージや相談員へのエール等が沢山寄せられました。

こうした心温まる祝辞やメッセージは、本年1月刊行の『開局20周年記念誌』に掲載させていただきました。

その中から、元理事長の柴田芳男様（元長崎県副知事）、元常務理事・事務局長の三原茂様（元長崎市民病院院長）、電話相談活動をバックアップして下さった運営ボランティアの一人の篠崎照子様、息吹きの会の小田俊之様からのメッセージを再録させていただきました。

息吹きの会の皆さんには、第1期～6期の養成講座全課程のビデオ撮影・編集・ダビング等を担っていただき、その後の講習教材としても大変役立ちました。改めて感謝申し上げます。

法人化について

元理事長 柴田 芳男

社会福祉法人「長崎いのちの電話」創立20周年、おめでとうございます。

2000年5月川崎会長のご逝去に伴い、私が会長に就任した時点で、「社会的信認の向上」「公金の受け入れ」「非課税と寄付者に対する税制上の優遇」等から、社会福祉法人設立の方向づけが既に行われており、毎年決算余剰金から法人設立のための積立金も2400万円に達しておりました。

7月に「法人化検討委員会」を発足させ、直ちに定款（案）の作成にかかりました。法律、政省令、通達、準則が絡みついており、独自性のうすいものになりました。2002年1月には、相談員の要望を受け、三晩にわたり説明会を開催しました。

電話相談業務以外に事業を行わない団体が社会福祉法人に馴染むかの意見も認可機関の県には初めあったのですが、2002年4月には事前審査にあげ、5月31日には認可申請を行い、以後はほぼ毎週県との折衝が始まりました。定款（案）の審査が終了した段階で、諸規定も審査の対象になるとのことで、早速立案にとりかかりました。団体も小さく、事務処理も成文がなくとも、何とかうまくまわっている状況に鑑み、リジッドなものよりも実情に合わせた形で立案しました。

11月6日審査も完了し、認可書を三原事務局長と共に受け取りました。本来は、創立記念日に当たる11月5日を認可日として希望していたのですが、県の内部決済の段階で1日ずれてしまいました。6日夜には、定款細則に基づく第1回運営協議会を開催し、11日に予定した第1回理事会と評議員会にかける人事、諸規程、事業計画、予算を審議しました。11日には、人事その他の議案をそれぞれの会議において可決しました。18日には、法務局の登記も完了し、対外的に法人として認証されました。

多忙なルーチン業務のほか約20カ月にわたり協力

いただいた三原事務局長を始め、当時の事務局の皆様
に感謝申し上げます。

「長崎いのちの電話」も、県内各層のご指導とご協力により、やっと成人式を迎えることができました。改めてお礼申し上げます。

県民の心の癒しを目指し、「長崎いのちの電話」の益々のご活躍を祈念申し上げます。

あの頃のこと

元事務局長 三原 茂

自殺予防運動として「いのちの電話」があり、長崎にもそれを設立しようという動きがあることを教えてくれたのは、馬渡仁美さんであった。馬渡さんも私も、スタートしたばかりの長崎市障害福祉センター（愛称・もりまちハートセンター）で働いていた時である。

設立発起人会を開催するための必要な人数を集められなくて困っているとのことであった。じゃあ私も少し手伝ってあげようということになった。しばらくして準備委員の、倉橋康夫さんと中村正さん（共に教会関係者）がお見えになり、協力依頼を頂いた。取り敢えず、医師会やロータリーに行つて協力や支援をお願いするなど、私なりの努力をしたと思う。幸いに最終的には245名の賛同者が得られたので平成5年（1993年）11月6日に、設立発起人会を開催し、改めて賛同を得て発足し、平成6年（1994年）11月5日に電話局を開局して電話相談を開始した。

当初の事務局は、大浦の日本聖公会聖三一教会に置いたのではなかったかと思う。しかし信者の方々に迷惑をかけてはいけないということで扇町の方に移転した。電話局を設置する適当な所……閑静で目立たず、相談員の足場のいい所……を模索していたところ、私の子供の小学校の先生が、定年で田舎に帰るのだが、自宅を良い借り手の人にと探していたのを聞きつけて交渉に行った。“そんな立派な目的なら……”と言うことで、あっさり無料で貸して下さったので恐縮した。

人と人との縁は大事にしておくものだししみじみ感じたことであった。改めてのスタートであったので、みんな大張り切りで毎日のように集まって準備をしたものである。一方、もりまちハートセンターも発足後日も浅いので、「いのちの電話」における私の仕事もそこまでと考えていたのだが、相談員募集や資金集めなど様々な問題が山積して意の如くならず、とうとう10年もの間、事務局長として基礎固めに力を尽くした。

途中、初代の会長川崎ナヲミ先生（精神科医）が急逝され途方に暮れたが、元副知事の柴田芳男氏の担ぎ出しに成功しホッとした。柴田氏は、私が市民病院長時代に地域の救急医療体制づくりに苦勞している時、審議会の座長をつとめて頂いたことがあった。諸問題に深い見識をお持ちであり、なによりその誠実なお人柄に敬服していた。その時は既に長崎空港ビルディングにお勤めであったが、直接あちらにお伺いし後任の会長をお引き受け頂いた。のちに「長崎いのちの電話」が、法人化される時は、県との折衝、規約の草案づくりなど、ほとんどご自分で起案され、事務局長の私はただ後ろについていただけの想いがある。改めてお礼を申し上げたい。

困難であった資金づくりは、先に述べた医師会やロータリークラブの友人達の支援を頂き、最終的には経済界の方々の後押しで長崎法人会のご支援を頂くようになって安定したように思う。

振り返ってみれば、ひたすら前を向いて疾走したような10年間であったが、創設期にかかわった多くの方々の支援があったればこそと、深く感謝にたえないところである。さてこれからの10年・20年がどのような展開をみせるのか予測は出来ないが、「命を尊重する」という私共の役割は永遠に変わりはない。その使命感を心に抱いて、「いのちの電話」活動に関わって頂きたいと願っている。

皆様のご健勝を切に祈りながら……。

かったような気がするけど……。お友達の川頭さんから「貴女にお願いがあるの、断らないでね」という、1本の電話から私の12年が始まったのでした。

聖三一教会の牧師さんの着替え室で、第1回の「いのちの電話」開局に向けての準備会が開かれたのでした。岸本さん、若杉さん、登さん、他みんな何の要求もせず、ただただ善意でこの会に集まって下さいました。役員の方々が、開局に向けた月1回の会議の度に千円ずつ寄付して下さい、何とかつないでいたのでした。三原先生の御尽力で沢山の寄付がいただける様になり、「いのちの電話」も安定したものとなりました。みんなの善意が実をむすんだと思います。

書きたい事、山ほどありますが、泣いた事、笑った事、口論した事……未知の世界へ挑戦する事の大変さと同時に、かけがえのない体験と豊かな視野を開いて下さった「いのちの電話」に、今は只感謝のみです。有難うございました。

忘れ得ぬ方々

息吹きの会 小田 俊之

颯爽と背筋を伸ばして闊歩していらっしやう。素敵な銀髪と微笑みの持ち主。築城良先生にお目にかかってから、二十数年の歳月が流れていたのですね。良いご縁をいただいたことを感謝しております。

はじめてお逢いしたときに、サムライの風格を持ったお方だなあと感じた。直観は正しかった。三原茂先生とお逢いするたびに傾倒していくのが分かった。

「井戸を掘った人のことを忘れてはならない」という言葉を教えていただいた松本汎人先生の実践はできませんが、生涯の座右の銘にさせていただきます。

ほかほかお天道さんのもとの、春の到来を告げるそよ風。小原玲子先生の爽やかな笑顔が大好きです。

いろんなことを学ばせていただいた「長崎いのちの電話」の皆さんに感謝です。

息吹きの会の仲間のクマさん、トクちゃん、ムッチちゃん、GOさん。昔は元気だったね。楽しかったね。いい思い出をありがとう。

一世のため人のために—

相談員のみなさまを心から尊敬しております。ほんとうにありがとうございます。

いのちの電話に感謝

元運営ボランティア 篠崎 照子

ああ、もう20年になるんだなあー。感無量です。

私も86歳、だとすると63歳のとき「いのちの電話」にかかわらせていただいたんですね。もっと若

役職歴

氏名	1993.11.6	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002.11.18	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
柴田 芳男		顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	会長	会長	理事長	理事長	理事長	理事長	理事長	理事長	理事長	理事	理事	理事		監事	監事
中根 允文	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	理事	理事	副理事長	副理事長	副理事長	理事長	理事長
三原 茂	監事	監事	役員	役員	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	顧問							

※ 1993.11.6 設立発起人総会

※ 1994.11.5 開局

※ 2002.11.6 社会福祉法人認可

※ 2014.11.8 開局20周年記念式典



就任のご挨拶

常務理事・事務局長
田村 繁幸

この度、当法人の常務理事・事務局長に就任（5月18日開催の理事会での互選）いたしました。

長年に亘り当法人の屋台骨を支えてくださっていた前常務理事・事務局長の川崎澄雄先輩が、『任期途中ながら、もはや気力・体力の限界』と仰せになり、昨年度末での勇退を表明されました。その翻意を得ること叶わず、ついには緊急出動のような形で残任期間限定での代役就任となった次第です

当法人は昨年開局20周年を迎え記念誌を発行いたしました。草創期から関わって下さった諸先輩方に多数寄稿していただきましたが、それらを改めて読ませていただくにつけ、いかに期間限定の代役とは言え、我が身を顧みない無謀な選択であったと、痛く悔悟の念にとらわれております。

とはいえ、成人を迎えた長崎いのちの電話は、まさに成人として社会的に大きな役割を期待されております。組織として改善すべき点も山積しております。課題も無尽蔵です。躊躇していることは許されません。

非力は非力ながらに、凡夫は凡夫ながらに、誠実に愚直に事に当たれば、天が、そしてなにより多くの仲間が見放すこともなかりうと腹をくくっております。

ご関係皆様方のご指導・ご支援を受けながら全力で任務に精励する所存ですので、どうぞ宜しくお願いを申し上げます。

平成26年度一般会計収入・支出決算書

皆様からの浄財で賄われている社会福祉法人長崎いのちの電話の昨年度の決算内容を感謝の念を込めてご報告します。

収入の部	項目	予算額	決算額
	1 講習会費	755,000	522,500
	2 補助金	2,800,000	2,786,000
	3 賛助会費	1,200,000	899,000
	4 寄付金	3,300,000	3,194,990
	5 受取利息配当金収入	0	7,396
	6 雑収入	188,000	1,042,284
	小計	8,243,000	8,452,170
	7 前期繰越金	2,021,990	2,021,990
	合計	10,264,990	10,474,160

支出の部	項目	予算額	決算額
	1 人件費支出	2,520,000	2,480,611
	1) 非常勤職員給与	2,300,000	2,250,511
	2) 職員交通費	220,000	230,100
	2 事業費	3,403,000	3,531,253
	1) 電話相談運営費	31,000	39,113
	2) 養成研修費	877,000	1,103,108
	3) 継続研修費	450,000	361,854
	4) 広報費	1,255,000	1,417,306
	5) 研修会参加費	780,000	603,500
	6) 運営諸費	10,000	6,372
	3 事務管理費	2,530,000	2,459,206
	1) 旅費交通費	6,000	11,000
	2) 事務消耗品費	72,000	64,412
	3) 印刷製本費	280,000	412,557
	4) 修繕費	10,000	17,193
	5) 通信運搬費	320,000	320,459
	6) 会議費	31,000	27,349
	7) 委託費	130,000	129,300
	8) 払込手数料	52,000	28,845
	9) 保険料	52,000	46,802
	10) 土地建物賃借料	1,332,000	1,217,757
	11) 渉外費	30,000	5,000
	12) 分担金	184,000	177,000
	13) 雑費	31,000	1,532
	4 20周年記念事業費	1,500,000	1,153,035
	5 予備費	311,990	216,879
	合計	10,264,990	9,840,984
	6 次期繰越金		633,176

2015年長崎いのちの電話 公開講座のお知らせ

会場：長崎県総合福祉センター
(長崎市茂里町3-24)

受講料：1講座 一般1,000円 学生500円
(当日、受付でお納めください)

23期電話相談ボランティアの養成講座が始まりました。前期講座は公開講座を兼ねています。希望する講座を自由に受講することができますので、どうぞご参加ください(事前申し込み不要です。)

日程	講座内容(テーマ)・講師
7月4日(土) 14:00~16:00	多重債務・その他金銭トラブルについて なかむら総合法律事務所 / 中村尚志
7月18日(土) 14:00~16:00	死ぬこと・生きること 長崎ウエスレヤン大学 / 内村公義
8月1日(土) 14:00~16:00	エンド・オブ・ライフケアについて 長崎大学 / 中根秀之
8月8日(土) 14:00~16:00	発達障害とパーソナリティ障害について 長崎大学 / 今村 明
8月22日(土) 14:00~16:00	うつ病と統合失調症について 長崎いのちの電話理事長 / 中根允文
8月29日(土) 14:00~16:00	依存症について 長崎純心大学ケアセンター / 法澤直子
9月12日(土) 14:00~16:00	虐待と家庭問題 長崎純心大学 / 児島達美

ご寄付・ご支援ありがとうございます

いのちの電話の運営は、皆様からの浄財によって賄われております。2014年度下半期(2014.10/1～2015.3/31)

に賛助会費や寄付金等を頂戴した皆様のお名前(敬称略)を記し、感謝の意を表します。又、お名前は省略しますが物品寄付も沢山頂戴しました。ありがとうございます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

賛助会費

<個人>	青山 周広	新井 弘子	荒川 明継	石野八州子	泉 博正	井石 哲哉	井石八千代
井手瑛智子	井手 保則	井上 直美	今道 昭哉	江口 恵子	鍵原 行雄	片岡寿美子	北浦 秀子
北島 陽夫	木下 洋子	木村 令子	草野ミヅエ	楠本 誠人	齋藤 寛	鹿谷 隆朗	末吉 征志
鈴木キヨミ	瀬頭 敬子	千住 博	隆杉 正和	田澤 和明	谷口フミ子	築城 巖	築城 峯子
中上 末明	中島 玲子	中村 尚達	鳴海 幸代	馬場 昭代	原口 俊哲	原 美恵子	姫野 順一
平井 浩子	平坂 治子	藤澤久美子	藤本小枝子	本田 隆一	牧 俊夫	益田 耕作	眞弓 一夫
南 秀雄	三矢 泰彦	牟田 幹久	本川 正和	森 光徳	森田 節子	山本 妙子	与猶 弥生

(391,000円)

<法人・団体> 九州北部税理士会 長崎支部 * 崎永海運株式会社 * 株式会社 ぜに屋本店
株式会社 チョープロ * 長崎百合野病院 * 元船光タクシー株式会社

寄付金

<個人>	荒木 迪子	石黒 正恒・千鶴子	石丸 栄子	石丸 光子	入山 和明	大石 政江
大富 英生	大西由紀子	押渕 礼子	梶村 龍太	川越 孝洋	川崎 澄雄	木村 和子
小杉 修代	佐藤 英代	砂川 久子	高田 博子	高橋 裕次	田澤 和明	田中 直孝
田村 繁幸	築城 巖	築城 峯子	中根 允文	中山 士朗	中山 治子	鳴海 幸代
平川 厚子	藤本小枝子	本多 啓子	松尾みち子	三矢 泰彦	山越 治子	山田 和子
山本 妙子	山脇 進	吉田 省三	匿名1名			山本 幸子

(1,509,500円)

<法人・団体> 飯島商事株式会社 * 有限会社 オーケー薬局 * 九州印刷株式会社
じゅうばし内科医院 * 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 長崎中央理事会 * 鎮西学院高等学校・幼稚園
公益社団法人 長崎法人会 * 長崎YWCA * 株式会社 中島工業 * 日本基督教団 長崎古町教会
日本ナザレン教団 長崎教会 * 医療法人 ふじもとクリニック * 菩提寺 * 元船光タクシー株式会社
医療法人社団 山田内科

歳末募金・クリスマス献金

<個人>	麻生 忠史	粟屋 曠	石橋 俊秀	市原 隆靖	井手瑛智子	伊藤美智子	入江 浩
江副 富子	楠本 誠人	江原 篤子	大石 政江	大坪 義昌	大西由紀子	遠山 杏子	岡 六四
小原 玲子	柿田多佳子	鍵原 行雄・恵子	片岡寿美子	片岡寿美子	加藤 泰孝	川崎 眞理	川端 辰長
北浦 秀子	木下 洋子	楠田 真典	小林 知佳	佐々田縫子	鹿谷 隆朗	下山 高生	下山 時生
白壁 勝哉	進藤 義則	菅村利江子	杉原 敏夫	梶山八千代	鈴木キヨミ	平 稔	高橋ちさ子
瀧 紀雄	塚崎 稔	土屋 勝彦	津山千寿子	出口 剛	朝長万左男・佳子		長岡 興樹

(734,000円)

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、口座記号番号及び金額を記入する際は、枠内にはっきりとご記入ください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行または郵便局の払込機能付ATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書をゆうちょ銀行または郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証等を必ずお受け取りください。
- ・この用紙による払込料金は、ご依頼人様が負担することとなります。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。



この場所には、何も記載しないでください。

※ シン目(シ)で切り取ってご利用ください。申し訳ありませんが、払込手数料はご負担ください。

中島 玲子	中田 慶子	長田 由美	中牟田晶子	中村 逸雄	中村くるみ	中村 瑞枝	西 隆義
沼 富美子	野崎 昌子	橋口富貴子	早川 隆太	林 邦昭	原田美佐子	廣瀬和一郎	藤澤久美子
藤澤 秀雄	藤本 京子	本田 圭助	牧 千尋 (多津江)		蒔本 恭	益田 耕作	町田トシエ
松永 俊次	三原 茂	宮田 雄吾	三山 文子	牟田 幹久	村井 貞子	本村 律子	森 良昭
安日 泰子	山口ハツ子	山越 治子	山下 末喜	山田 美保	山脇 進	横瀬 昭幸	渡辺 明美
渡邊 才人							

<法人・団体> 援助マリア修道会 * 大村さくら法律事務所 * 健裕薬局
 医療法人厚生会 虹が丘病院 * 医療法人春回会 井上病院 * 昭徳寺 * 株式会社 信和
 瑞光寺 * 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ 西町協議会 * 有限会社 正文社印刷所
 株式会社 大通エージェンシー * なかむら総合法律事務所 * 有限会社 デーリー通信機器
 長崎バプテスト教会 * 日本基督教団 長崎教会 * 日本キリスト教団 長崎銀屋町教会
 日本基督教団 長崎平和記念教会 * はざま神経内科・内科医院 * 医療法人 林内科医院
 平坂製菓株式会社 * 福岡博孝法律事務所 * ボランティアふきのとうグループ
 医療法人 増田整形外科 * 丸菱テクノ株式会社 * みちクリニック
 明練寺 * 恵の丘長崎原爆ホーム * 医療法人 山口内科・循環器内科

資金援助ボランティアとして活動を支えて下さい

「長崎いのちの電話」は、相談員をはじめ
 全てボランティアで運営されており、その
 活動は寄付金・賛助会費・助成金で賄われ
 ています。あなたも“資金援助ボランティ
 ア”として「長崎いのちの電話」を支えて
 くださいませんか。ご協力をよろしくお願
 いいたします。

税制上の優遇措置があります

個人の場合：所得控除・個人県民税控除
 が受けられます。

法人・団体の場合：損金算入が受けられ
 ます。

毎年一定の資金援助して下さる方は、賛助
 会員となります。

★賛助会費

個人会費：1万円・5千円・2千円
 法人会費：5万円・3万円・2万円・1万円

★寄付金 金額は随意です。随時お受けいたします。

ご送金先 郵便振替 01870-3-40716

加入者名「社会福祉法人 長崎いのちの電話」

※下部の払込取扱票を切り取ってご利用いただくと便利です。

※申し訳ありませんが、払込手数料はご負担ください。

※払込手数料は、郵便局窓口：120円 ATM：80円です。

3万円以上は、各々330円、240円となります。

●「銀行振込み」をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

事務局 TEL 095-843-4410

払込取扱票

口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。

00	口座記号										口座番号(右詰で記入)										金額	千	百	十	万	千	百	十	円			
	0	1	8	7	0	3						4	0	7	1	6																
加入者名	*(社福) 長崎いのちの電話																								料金		備考					
通信欄	<input type="checkbox"/> に✓を入れ、賛助会費または寄付、金額をご指定ください。 <input type="checkbox"/> 賛助会費 個人会費 <input type="checkbox"/> 10,000円 <input type="checkbox"/> 5,000円 <input type="checkbox"/> 2,000円 法人・団体会費 <input type="checkbox"/> 50,000円 <input type="checkbox"/> 30,000円 <input type="checkbox"/> 20,000円 <input type="checkbox"/> 10,000円 <input type="checkbox"/> 寄付 (金額は随意です)																															
ご依頼人	おなまえ																								日		附		印			
各票の※印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。	裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)																								これより下部には何も記入しないでください。							

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	01870-3										40716													
加入者名	*(社福) 長崎いのちの電話																							
金額																								
ご依頼人	おなまえ																							
料金	(消費税込) 円																							
備考																								

※申し訳ありませんが、払込手数料はご負担ください。

この受領証は、大切に保管してください。